

# 薬 剤 部

## 1 構 成 員

	平成 28 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	40 人	
その他（技術補佐員等）	9 人	
合計	50 人	

## 2 教員の異動状況

川上 純一（教授）（H18.4.1～現職）

## 3 研究業績

	平成 27 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	7 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	13.21	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	1 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	16 編	(16 編)
そのインパクトファクターの合計	0.78	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	6 編	(6 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Naito T, Kubono N, Deguchi S, Sugihara M, Itoh H, Kanayama N, Kawakami J: Amlodipine passage into breast milk in lactating women with pregnancy-induced hypertension and its estimation of infant risk for breastfeeding. *J Hum Lact* 31: 301–306, 2015 [ 1.98 ]
2. Naito T, Mino Y, Aoki Y, Hirano K, Shimoyama K, Ogawa N, Kagawa Y, Kawakami J: ABCB1 genetic variant and its associated tacrolimus pharmacokinetics affect renal function in patients with rheumatoid arthritis. *Clin Chim Acta* 445: 79–84, 2015 [ 2.82 ]
3. Ishida T, Naito T, Kawakami J: Simultaneous determination of erlotinib and its isomeric major metabolites in human plasma using isocratic liquid chromatography-tandem mass spectrometry and its clinical application. *Biomed Chromatogr* 29: 643–646, 2015 [ 1.72 ]
4. Yamada T, Mino Y, Yagi T, Naito T, Kawakami J: Saturated metabolism of voriconazole N-oxidation resulting in nonlinearity of pharmacokinetics of voriconazole at clinical doses. *Biol Pharm Bull* 38: 1496–1503, 2015 [ 1.83 ]
5. Naito T, Kubono N, Ishida T, Deguchi S, Sugihara M, Itoh H, Kanayama N, Kawakami J: CYP3A activity based on plasma 4 $\beta$ -hydroxycholesterol during the early postpartum period has an effect on the plasma disposition of amlodipine. *Drug Metab Pharmacokinet* 30: 419–424, 2015 [ 2.57 ]

インパクトファクターの小計 [ 10.92 ]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Tsuji Y, Ota Y, Kasai H, Hiraki Y, Yamada T, Matsunaga N, Ohishi H, Yaguchi T, Kitahara T, Naito T, To H: Population pharmacokinetics analysis of generic teicoplanin with MRSA or GPC infection by multicenter study. *Jpn J Ther Drug Monit* 32: 188–197, 2015. 辻泰弘, 太田幸雄, 笠井英史, 平木洋一, 山田尚広, 松永典子, 大石博史, 矢口武廣, 北原隆志, 内藤隆文, 藤秀人: 日本人MRSAおよびグラム陽性菌感染症を対象としたジェネリック・テイコプラニンの多施設共同母集団薬物動態解析. *TDM研究* 32: 188–197, 2015 [ 0 ]
2. Tsunekawa N, Higashi N, Kogane Y, Waki M, Shida H, Nishimura Y, Adachi H, Nakajima M, Irimura T: Heparanase augments inflammatory chemokine production from colorectal carcinoma cell lines. *Biochem Biophys Res Commun* 469: 878–883, 2016 [ 2.29 ]

インパクトファクターの小計 [ 2.29 ]

## (2-1) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 佐藤聖, 内藤隆文, 石田卓矢, 川上純一: がん悪液質の病態時における血中オキシコドンの濃度上昇

### (3) 総 説

#### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Kawakami J: Clinical pharmacology and pharmacoepidemiology for medication safety in clinical settings. YAKUGAKU ZASSHI 135: 619–624, 2015. 川上純一: 医療現場における薬物治療の安全性確保を目指した臨床薬理学・薬剤疫学研究. 薬学雑誌 135: 619–624, 2015 [ 0.26 ]
2. Naito T, Kawakami J: Interindividual variation of pharmacokinetic disposition of and clinical responses to opioid analgesics in cancer pain patients. YAKUGAKU ZASSHI 135: 709–715, 2015. 内藤隆文, 川上純一: がん患者における麻薬性鎮痛薬の薬物動態及び臨床効果の個人差要因. 薬学雑誌 135: 709–715, 2015 [ 0.26 ]
3. Mino Y: Optimization of immunosuppression and the prevention of fungal infection in autoimmune diseases. YAKUGAKU ZASSHI 135: 1123–1127, 2015. 見野靖晃: 自己免疫疾患患者における免疫抑制療法と感染予防法の最適化. 薬学雑誌 135: 1123–1127, 2015 [ 0.26 ]
4. 内藤隆文, 田中紀章, 八木達也, 土井松幸, 佐藤重仁, 川上純一: 術後早期におけるフェンタニルの血中動態および尿中排泄に及ぼす CYP3A5\*3 の影響. 臨床薬理の進歩 36: 153–161, 2015
5. 川上純一: チーム医療を通じた薬剤師の保険医療への貢献, ひろば. 週刊社会保障 69: 40–41, 2015
6. 内藤隆文: 第14回国際 TDM 会議 (IATDMCT2015) 参加印象記, 会員寄稿. TDM 研究 33: 40–41, 2016
7. 内藤隆文: 多様化した薬物治療に対応可能な日本臨床薬理学会認定薬剤師, 専門・認定薬剤師ガイド (臨時増刊号). 月刊薬事 57: 1382–1384, 2015
8. 内藤隆文: 出発点としての薬物療法専門薬剤師, 専門薬剤師リレーエッセイ. 医療薬学 41: 451, 2015
9. 川上純一: 日本ジェネリック医薬品学会第9回学術大会にあたって, 巻頭言. ジェネリック研究 9: 3, 2015
10. 川上純一: 薬剤選択の基準は治療効果: 科学的合理性への配慮が必要, 日本ジェネリック医薬品学会第9回学術大会: 大会長講演「ジェネリック・バイオンミラーのさらなる使用促進への挑戦」. 医薬ジャーナル 51: 1670–1672, 2015
11. 八木達也, 川上純一: 浜松医科大学医学部附属病院の NICU における薬剤業務の考え方. 薬事新報 2898: 727–732, 2015

12. 川上純一: ジェネリック・バイオシミラーのさらなる使用促進への挑戦: 日本ジェネリック医薬品学会第9回学術大会大会長講演. 臨床医薬 31: 755-762, 2015

13. 川上純一: 男女共同参画社会づくり宣言書, 巻頭言. 静岡県病院薬剤師会会報 65: 4-5, 2016

14. 山本知広: 病院実習への取り組みーこれまでを振り返って. 静岡県病院薬剤師会会報 65: 11-13, 2016

インパクトファクターの小計 [ 0.78 ]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. Tokuyama S, Kawakami J: Frontiers in research of drug transporters aimed at appropriate pain relief by narcotic analgesics. YAKUGAKU ZASSHI 135: 685, 2015. 徳山尚吾, 川上純一: 麻薬性鎮痛薬による適切な疼痛緩和治療を目指した薬物トランスポーター研究の最前線. 薬学雑誌 135: 685, 2015 [ 0.26 ]

2. 津谷喜一郎, 川上純一: 第35回日本臨床薬理学会学術総会シンポジウム35「臨床薬理と医療技術評価」座長コメントと本トピックスの企画趣旨. 薬理と治療 43: 1385-1386, 2015

インパクトファクターの小計 [ 0.26 ]

#### (4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 川上純一 (編集): モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい病院実務実習テキスト 第4版. 病院・薬局実務実習東海地区調整機構/監、実務実習テキスト作成研究会/編, じほう, 東京, 2015

2. 内藤隆文 (執筆): モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい病院実務実習テキスト 第4版. 病院・薬局実務実習東海地区調整機構/監、実務実習テキスト作成研究会/編, じほう, p.18-19, p.25-27, p.244-245, 東京, 2015

3. 川上純一: 浜松医科大学医学部病院薬剤部. 岡田弘晃, 渡辺善照 (監修), 薬剤学概史: 私はこう見る120人による俯瞰図, じほう, 2015, 東京, p.430-433

4. 川上純一, 見野靖晃: 血液透析患者における薬物動態の特徴を教えてください. 加藤明彦編著, いまさら訊けない! 透析患者薬剤の考えかた、使い方 Q&A, 中外医学社, 2015, 東京, p.1-5

5. 川上純一: 小児薬剤投与法の原則, 水口雅, 市橋光, 崎山弘 (総編集), 今日の小児治療指針第16版, 医学書院, 2015, 東京, p.950-953

6. 浜松医科大学医学部附属病院薬剤部（取材協力）：薬剤師のひみつ-みんなの“安心”のために-。大石容子（漫画），WILL こども知育研究所（構成），株式会社学研プラス（発行），2016年3月（初版）

#### 4 特許等の出願状況

	平成27年度
特許取得数（出願中含む）	0件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成27年度
(1) 科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）	17件 (1,210万円)
(2) 厚生労働科学研究費	1件 (138万円)
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0件 (0万円)
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	0件 (0万円)
(5) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(6) 財団助成金	1件 (80万円)
(7) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(8) 奨学寄附金	0件 (0万円)

##### (1) 科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）

- 川上純一（代表），内藤隆文（分担）：平成27年度科学研究費補助金，基盤研究（C）「がん患者における病期に基づくオピオイドの鎮痛効果および有害作用の変動予測法の構築」130万円（27-29年度，370万円）（新規）
- 内藤隆文（代表），川上純一（分担）：平成27年度科学研究費補助金，基盤研究（C）「がん悪液質の病態時におけるオピオイドによる鎮痛効果、有害作用の個人差要因の解明」130万円（平成26-28年度，390万円）（継続）
- 川上純一（分担），堀雄史（分担），佐井君江（代表）：平成27年度科学研究費補助金，基盤研究（C）「医療情報データベースを用いた免疫関連バイオ医薬品と化学薬品間の相互作用評価」20万円（平成25-27年度，390万円）（継続）
- 川上純一（分担），堀雄史（分担），今任拓也（代表）：平成27年度科学研究費補助金，基盤研究（C）「新機序糖尿病治療薬の副作用に関する薬剤疫学研究とその応用」30万円（平成27-29年度，390万円）（新規）
- 堀雄史（代表）：平成27年度科学研究費補助金，若手研究（B）「医療情報データベースを用いたARBの医薬品相互作用の探索法開発およびその機序解明」70万円（平成27-29年度，310万円）（新規）
- 見野靖晃（代表）：平成27年度科学研究費補助金，若手研究（B）「尿酸生成酵素阻害薬の至適投与設計法の確立」170万円（平成27-29年度，310万円）（新規）
- 青野浩直（代表）：平成27年度科学研究費補助金，奨励研究「地域医療連携による外来薬物治療の最適化のための情報提供ツール構築と有用性の評価」60万円（新規）
- 高井伸彦（代表）：平成27年度科学研究費補助金，奨励研究「注射用タゾバクタム/ピペラシリンの

推奨投与量が有効性や安全に及ぼす影響の解析」 60万円（新規）

9. 久保野尚子（代表）：平成27年度科学研究費補助金, 奨励研究「インフリキシマブの出産前後における薬物動態変動および児への影響に関する研究」 60万円（新規）
10. 山田直香（代表）：平成27年度科学研究費補助金, 奨励研究「急性期重症患者への投与を想定したメトロニダゾール静注液の配合変化についての検討」 60万円（新規）
11. 加藤真也（代表）：平成27年度科学研究費補助金, 奨励研究「胃がん腹膜播種に対するトラスツズマブの腹腔内投与を用いた新規治療法の開発」 60万円（新規）
12. 大澤隆志（代表）：平成27年度科学研究費補助金, 奨励研究「多発性骨髄腫患者におけるボルテゾミブの薬物動態と炎症性サイトカインの関係解明」 60万円（新規）
13. 大澤志保（代表）：平成27年度科学研究費補助金, 奨励研究「腎機能低下時における用量調節の遵守状況及び有害作用発現頻度と治療継続率の関係解明」 60万円（新規）
14. 石田卓矢（代表）：平成27年度科学研究費補助金, 奨励研究「肺癌患者の血中エルロチニブ濃度と4β-ヒドロキシコレステロール濃度との関係解明」 60万円（新規）
15. 原内智慧（代表）：平成27年度科学研究費補助金, 奨励研究「妊婦におけるクロラムフェニコール臍錠の血中移行性と安全性の評価」 60万円（新規）
16. 加藤文美（代表）：平成27年度科学研究費補助金, 奨励研究「レトロスペクティブ及びプロスペクティブ解析を用いたヘパリン至適投与量決定法の構築」 60万円（新規）
17. 山崎美穂（代表）：平成27年度科学研究費補助金, 奨励研究「薬剤耐性菌出現防止を目的としたドリペネムのPK-PD理論に基づく投与設定法の確立」 60万円（新規）

## (2) 厚生労働科学研究費

1. 川上純一（代表）, 堀雄史（分担）, 木村通男, 大江和彦, 中島直樹, 横井英人, 池田俊也, 佐藤嗣道, 佐井君江, 頭金正博: 平成27年度厚生労働科学研究費, 医薬品等規制調和・評価研究事業「医薬品等の市販後安全対策における医療情報データベース利活用のための薬剤疫学研究」 138.4616万円（平成27年度, 848.4616万円）（継続）

## (6) 財団助成金

1. 八木達也（代表）, 内藤隆文（分担）: 公益財団法人 薬学研究奨励財団. 第36回（平成27年度）研究助成金（グループB）「術後患者におけるデクスメトミジンによる神経保護作用および有害作用の個人差に着目した至適投与法の確立」 80万円（新規）

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	5件
(3) 学会座長回数	0件	4件
(4) 学会開催回数	0件	1件
(5) 学会役員等回数	2件	54件
(6) 一般演題発表数	10件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

口頭発表

1. Sato H, Naito T, Ishida T, Ohnishi K, Kawakami J: Relationship between the oxycodone pharmacokinetics and serum interleukin-6 in cachectic cancer patients. 14th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (IATDMCT2015). Oct 2015 (Rotterdam, Netherland)

ポスター発表

1. Naito T, Kubono N, Ishida T, Deguchi S, Sugihara M, Itoh H, Kanayama N, Kawakami J: Relationship between amlodipine pharmacokinetics and CYP3A activity in lactating women with pregnancy-induced hypertension. 12th Congress of the European Association for Clinical Pharmacology and Therapeutics (EACPT2015). June 2015 (Madrid, Spain)
2. Ishida T, Naito T, Sato H, Ohnishi K, Kawakami J: Relationships between plasma concentrations of fentanyl and 4beta-hydroxycholesterol in cancer patients. 12th Congress of the European Association for Clinical Pharmacology and Therapeutics (EACPT2015). June 2015 (Madrid, Spain)
3. Hori K, Kato A, Kawakami J: Detection and validation of ototoxicity associated with anticancer platinum drugs using a hospital database. 31st International Conference on Pharmacoepidemiology & Therapeutic Risk Management (ICPE). Aug 2015 (Boston, MA, USA)
4. Yagi T, Ohara S, Katagiri Y, Yamada T, Ishida T, Yamamoto T, Naito T, Kawakami J: Pharmaceutical interventions to infection control and risk management in neonatal intensive care unit of a Japanese hospital. World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2015; 75th International Congress of FIP. Sep 2015 (Düsseldorf, Germany)
5. Tashiro M, Naito T, Kagawa Y, Kawakami J: Plasma disposition of prochlorperazine and gender affect its antiemetic effect and prolactin secretion in cancer pain patients treated with oxycodone. World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2015; 75th International Congress of FIP. Sep 2015 (Düsseldorf, Germany)
6. Yoshikawa N, Naito T, Yagi T, Kawakami J: Fluorometric UHPLC method using NBD-F for quantitation of pregabalin in human plasma. 14th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (IATDMCT2015). Oct 2015 (Rotterdam, Netherland)
7. Naito T, Mino Y, Aoki Y, Hirano K, Shimoyama K, Ogawa N, Kagawa Y, Kawakami J: Impact of CYP3A5 and ABCB1 genetic variants on blood exposure of and clinical responses to tacrolimus in patients with rheumatoid arthritis. 14th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (IATDMCT2015). Oct 2015 (Rotterdam, Netherland)
8. Tanaka H, Naito T, Mino Y, Kawakami J: Simultaneous determination of tramadol and its major metabolites in human plasma using isocratic LC-MS/MS and its clinical application. American Society of Health-System Pharmacists (ASHP2015 Midyear). Dec 2015 (New Orleans, LA, USA)
9. Mino Y, Oshiro J, Naito T, Yamada T, Kawakami J: Characterization of the boxed warnings in package insert of medicine in Japan. American Society of Health-System Pharmacists (ASHP2015 Midyear). Dec 2015 (New Orleans, LA, USA)

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

1. 第9回日本ジェネリック医薬品学会（大会長；川上純一）浜松,2015年6月

3) シンポジウム発表

1. 川上純一: チーム医療における薬剤師の役割と今後の展望. チーム医療の新しい展開: チームで取り組む新しい医療、多職種による連携. 第29回日本医学会総会 2015 関西, 京都, 2015年4月
2. 内藤隆文: ミコフェノール酸モフェチルの TDM の考え方と測定値のアセスメント, 症例から考える免疫抑制薬の TDM. スキルアップセミナー4 (症例から学ぶ実践 TDM) . 第34回日本 TDM 学会・学術大会, 松本, 2015年5月
3. 川上純一: ジェネリック・バイオシミラーのさらなる使用促進への挑戦: 大会長講演. 第9回日本ジェネリック医薬品学会学術大会, 浜松, 2015年6月
4. 堀雄史: 病院情報データベースと副作用検出の実例. シンポジウム: 医療情報データベースの本格的な利活用. 医療薬学フォーラム 2015/第23回クリニカルファーマシーシンポジウム, 名古屋, 2015年7月
5. 内藤隆文: ミコフェノール酸の TDM の現状とこれからの方向性. 免疫抑制薬 TDM ガイドラインの策定: ライセンスを活用するための重要ツールとして. 第25回日本医療薬学会年会, 横浜, 2015年11月

4) 座長をした学会名

1. 川上純一: 日本ジェネリック医薬品学会第9回学術大会
2. 内藤隆文: 日本ジェネリック医薬品学会第9回学術大会
3. 川上純一: 医療薬学フォーラム 2015/第23回クリニカルファーマシーシンポジウム
4. 内藤隆文: 第24回日本医療薬学会年会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 川上純一: 日本病院薬剤師会 常務理事
2. 川上純一: 日本病院薬剤師会 医療政策部 部長
3. 川上純一: 日本病院薬剤師会 将来計画委員会 委員
4. 川上純一: 静岡県病院薬剤師会 会長
5. 青野浩直: 静岡県病院薬剤師会 理事
6. 内藤隆文: 静岡県病院薬剤師会 評議員
7. 川上純一: 日本薬剤師会 常務理事
8. 川上純一: 日本薬剤師会 病院診療所薬剤師部会 部会長
9. 川上純一: 日本薬剤師会 薬価基準検討委員会 主担当理事
10. 川上純一: 日本薬剤師会 第48回学術大会 ポスター優秀賞審査委員会 委員
11. 川上純一: 日本医療薬学会 理事
12. 内藤隆文: 日本医療薬学会 代議員
13. 川上純一: 日本医療薬学会 会員委員会 委員長

14. 川上純一: 日本医療薬学会 学会誌 (Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences, Japanese Society of Pharmaceutical Health Care and Sciences) 編集委員 (Editorial advisory board)
15. 川上純一, 内藤隆文: 日本臨床薬理学会 社員
16. 川上純一: 日本臨床薬理学会 広報委員会 委員
17. 川上純一: 日本臨床薬理学会 東海・北陸支部 支部世話人
18. 川上純一: 日本薬学会 医療薬科学部会 常任世話人
19. 見野靖晃: 日本薬学会 医療薬科学部会 次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム若手世話人
20. 川上純一: 日本薬学会 東海支部 幹事
21. 川上純一: 日本薬学会 医療薬科学部会 医療薬学フォーラム 2015/第 23 回クリニカルファーマシーシンポジウム組織委員会 委員
22. 川上純一: 日本薬物動態学会 評議員
23. 川上純一: 日本薬物動態学会 学会活動活性化委員会 委員
24. 川上純一: 日本薬剤学会 評議員
25. 川上純一: 日本薬剤疫学会 評議員
26. 川上純一: 日本ジェネリック医薬品学会 理事
27. 川上純一: 日本ジェネリック医薬品学会 国際委員会 副委員長
28. 川上純一: 日本ジェネリック医薬品学会第 9 回学術大会 大会長
29. 川上純一, 内藤隆文: 日本ジェネリック医薬品学会第 9 回学術大会 組織委員会委員
30. 内藤隆文, 見野靖晃: 日本 TDM 学会 TDM ガイドライン策定委員会 委員
31. 川上純一: 第 10 回日本緩和医療薬学会年会 組織委員会 委員
32. 川上純一: 第 29 回日本医学会総会 プログラム委員会ワーキンググループメンバー
33. 八木達也: 国公立大学病院感染対策協議会 ガイドライン作業部会 抗菌薬適正使用ガイドライン作成担当委員
34. 川上純一: 静岡県公立大学法人静岡県立大学 客員教授
35. 川上純一: 静岡県公立大学法人静岡県立大学 平成 26 年度教員特別研究推進費学外審査委員
36. 川上純一: 厚生労働省 特定機能病院及び地域医療支援病院のあり方に関する検討会 構成員
37. 川上純一: 厚生労働省 医道審議会 薬剤師分科会 専門委員
38. 川上純一: 厚生労働省・中央社会保険医療協議会・保険医療専門審査員 (診療報酬調査専門組織 医療機関コスト調査分科会 委員)
39. 川上純一: 厚生労働省 中央社会保険医療協議会・保険医療専門審査員 (薬価算定組織 委員)
40. 川上純一: 厚生労働省 中央社会保険医療協議会・保険医療専門審査員 (診療報酬調査専門組織 DPC 評価分科会 委員)
41. 川上純一: 厚生労働省 中央社会保険医療協議会 平成 26 年度診療報酬改定結果検証に係る調査検討委員会 (委託事業) 委員
42. 川上純一: 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会 医薬品第一部会 委員
43. 川上純一: 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会 医薬品第二部会 委員
44. 川上純一: 静岡県 薬事審議会 委員
45. 川上純一: 静岡県薬事振興会 理事
46. 川上純一: 静岡県薬剤師研修協議会 委員

- 47. 川上純一: 東海地区薬学部学生病院・薬局実務実習調整機構 委員
- 48. 川上純一: 静岡県立大学 研究倫理審査委員会委員
- 49. 川上純一: 独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会 専門委員
- 50. 川上純一: 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) 専門委員
- 51. 川上純一: 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 研究成果展開事業マッチングプランナープログラム探索試験 専門委員
- 52. 川上純一: 公益財団法人日本医療機能評価機構 評議員
- 53. 川上純一: 公益財団法人薬学研究奨励財団 選考委員会 委員
- 54. 堀雄史: 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 市販後データサイエンスアドバイザーグループ委員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	0 件	2 件

### (2) 外国の学術雑誌の編集

- 1. 川上純一: 国際薬剤疫学会 学会誌 (Pharmacoepidemiology and Drug Safety) 編集委員 (Associate editor) PubMed/Medline 登録有,IF 2.939
- 2. 川上純一: The Open Drug Metabolism Journal 編集委員 (Editorial advisory board) PubMed/Medline 無,IF 無

### (3) 国内外の英文雑誌のレフリー

- 1. 内藤隆文: Drug Metabolism and Pharmacokinetics 1 件 (Japan)
- 2. 内藤隆文: Biological & Pharmaceutical Bulletin 1 件 (Japan)
- 3. 堀雄史: Pharmacoepidemiology and Drug Safety 1 件 (UK)

## 9 共同研究の実施状況

	平成 27 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	4 件
(3) 学内共同研究	6 件

### (2) 国内共同研究

- 1. 杉原正久 (沢井製薬) : 産後高血圧症治療薬の母乳への移行性の評価
- 2. 辻泰弘 (富山大学) : 日本人における抗 MRSA 薬の母集団薬物動態解析 (長崎大学, 別府医療センター)
- 3. 齋藤嘉朗, 佐井君江, 今任拓也 (国立医薬品食品衛生研究所), 頭金正博 (名古屋市立大学) : 医療情報データベースを用いた副作用検出方法に関する検討
- 4. 伊藤善規 (岐阜大学) : 薬剤師業務のアウトカムの評価に関する検討

### (3) 学内共同研究

1. 小川法良（免疫内科），鳥養栄治（整形外科）：関節リウマチ患者における免疫抑制薬の体内動態と薬効および有害反応との関係
2. 土井松幸（集中治療部）：集中治療管理下における鎮静剤の臨床効果および有害作用の個人差要因の解明
3. 須田隆文（呼吸器内科）：非小細胞肺癌患者における抗がん薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
4. 伊東宏晃（周産母子センター）：産後高血圧症治療薬の母乳への移行性の評価
5. 伊東宏晃（周産母子センター）：妊娠中の抗菌薬膾錠の血中への移行性の評価
6. 木村道男（医療情報部）：臨床研究情報システムを用いた副作用の検出方法に関する検討

## 10 産学共同研究

	平成 27 年度
産学共同研究	0 件

## 11 受賞

### (3) 国内での授賞

1. 内藤隆文: 海老原賞, 日本 TDM 学会 (平成 27 年度) 「Impact of CYP3A5 and ABCB1 genetic variants on blood exposure of and clinical responses to tacrolimus in patients with rheumatoid arthritis」
2. 山下彩花, 山田健人, 脇田真実子, 小川喜寛, 渡邊崇, 木村通男, 堀雄史, 川上純一, 頭金正博: 優秀ポスター賞, 医療薬学フォーラム 2015 / 第 23 回クリニカルファーマシーシンポジウム, 日本薬学会医療薬科学部会, 名古屋, 2015 年 7 月 「医療情報データベースを活用した副作用としての急性腎不全の検出に関する研究」
3. 原内智慧, 大澤隆志, 久保野尚子, 内藤隆文, 伊東宏晃, 金山尚裕, 川上純一: 優秀演題賞, 第 25 回日本医療薬学会年会, 横浜, 2015 年 11 月 「細菌性膾錠の妊婦におけるクロラムフェニコール膾錠の血中移行性の定量的評価」
4. 吉川望美, 内藤隆文, 八木達也, 川上純一: 優秀発表者賞, 第 136 回日本薬学会年会. 横浜, 2016 年 3 月 「血漿中プレガバリン濃度の迅速測定法の開発とその神経障害性疼痛患者への適用」

## 15 新聞, 雑誌等による報道

1. 木内祐二, 川上純一, 赤羽根秀宜, 狭間研至: 薬剤師 3.0 実現に向けた課題と解決策 (出演), カンテレ Chanel+
2. YouTube: 第一部: <https://www.youtube.com/watch?v=tACG2WwPC7o>, 第二部: [https://www.youtube.com/watch?v=2eqhkd\\_inY4](https://www.youtube.com/watch?v=2eqhkd_inY4)
3. USTREAM: 第一部: <http://www.ustream.tv/recorded/60714268>. 第二部: <http://www.ustream.tv/recorded/60716624>
4. 川上純一: 進展著しいチーム医療、活躍の場は地域へも拡大: チーム医療への薬剤師の参画, チームで取組む新しい医療: 多職種による連携. 医薬ジャーナル 51: 1273-1274, 2015
5. 川上純一: 長期処方、投与日数の制限には慎重論も、日病など病院関連団体. メディファクス No. 7077 (2015 年 5 月 20 日), p.1

6. 川上純一: 門内薬局は「医師に物言えぬ」薬局 日病薬・川上氏 規制改革案に懸念「コーヒー屋と同列ではない」. リスファクス No. 6814 (2015年5月20日), p.1
7. 川上純一: 日病など病院関連団体 長期処方、投与日数の制限には慎重論も. PharmacyNewsbreak.No. 463 (2015年5月21日), p.6-7
8. 川上純一: 幅広く医薬政策を議論する場に 後発品、バイオ後続品の使用促進への挑戦: 川上純一 (浜松医科大学病院薬剤部長) 大会長に聞く, 日本ジェネリック医薬品学会第9回学術大会. 薬事日報 No. 11582 (2015年6月8日), p.4-5
9. 川上純一: DPC 分科会: 持参薬の現状把握へ特別調査を了承. メディファクス No. 7098 (2015年6月18日), p.6
10. 川上純一: 持参薬の現状把握へ特別調査を了承: DPC 分科会. 日刊薬業 No. 14216 (2015年6月19日), p.6-7
11. 川上純一: 次期診療報酬改定、7項目が重点要望事項-ハイリスク薬、周術期管理など: 日病薬が第51回通常総会. 薬事日報 No. 11589 (2015年6月24日), p.1
12. 川上純一: 院内処方と院外処方の患者負担の差に関する議論について: ブロック代表質問・中国. Pharmacy Newsbreak No. 490-2 (2015年6月29日), p.14-15
13. 川上純一: 医師、看護師の8割以上が負担減-薬剤師の病棟業務に高い評価: 政府調査の高評価に価値-日病薬・川上常務理事「現場の取組み見てもらえた」. 薬事日報 No. 11594 (2015年7月6日), p.7
14. 川上純一: 学術大会レポート: 日本ジェネリック医薬品学会第9回学術大会 (浜松)「ジェネリック・バイオシミラーのさらなる使用促進への挑戦」. 月刊ジェネリック No. 148 (2015年7月): 38-39, 2015
15. 堀雄史: 副作用発現頻度の解明に院内で蓄積した情報活用-浜松医大病院薬剤部が報告: 医療薬学フォーラム 2015. 薬事日報 No. 11598 (2015年7月10日), p.3
16. 川上純一: お薬手帳啓発に家康くん: 浜松医科大学付属病院 ポスター400 部配布へ. 静岡新聞 No. 26434 (2015年8月22日) 朝刊, p.19 (地域西)
17. 川上純一: オルメテック OD 錠上市にあたって (第一三共株式会社社内用 PV 出演), 第一三共 (2015年10月)
18. 川上純一: 調剤料不均衡是正より「医学管理料の充実を」日病薬・川上常務理事. メディファクス No. 7175 (2015年10月14日), p.1
19. 川上純一: 日病薬・川上常務理事 院内・外の調剤料不均衡是正より「医学管理料の充実を」. Pharmacy Newsbreak No. 561 (2015年10月15日), p.8
20. 川上純一: 患者が抱く薬剤師像、病院と薬局で「二分」: 川上・日病薬常務理事、指導で求められるのは「記録」. Pharmacy Newsbreak No. 587-2 (2015年11月24日), p.3-4
21. 川上純一: 降圧薬治療におけるオルメテック OD 錠が果たす役割(薬剤師対象 PV 出演), 第一三共, 2016年2月
22. 川上純一: 病棟薬剤業務加算 高度急性期の適用「大きい」日病薬が評価: 出来高病院への後発医薬品加算で、使用が「加速する」. リスファクス No. 6983 (2016年2月2日), p.1
23. 川上純一: 日病薬・川上常務、無菌製剤処理料「メッセージ性高い」: 喘息管理料で外来評価に道、かかりつけが病薬連携促す. 薬事日報 No. 11699 (2016年3月23日), p.1
24. 川上純一: 28改定について川上常務理事が説明: 日病薬第52回臨時総会. 薬事新報 No. 2934 (2016年3月24日), p.21